

研究報告

ファッション産業におけるサステナビリティへの取り組み事例 —The Case Study on Sustainability in the Fashion Industry—

Bunka Fashion Graduate University

Tomomi Aoki

Mari Yamaoka

文化ファッション大学院大学

助手 青木 智美

助教 山岡 真理

要旨: ファッション産業で企業が経営を持続していくために、地球環境、社会環境への影響を無視することはできなくなっており、近年その傾向はますます強くなってきている。本研究報告では、ファッション産業でのサステナビリティへの取り組み事例を「繊維素材」、「企画」、「流通・小売り」の切り口からいくつか取り上げ、その活動の傾向を把握する。

1. はじめに

「サステナビリティ (Sustainability)」とは「持続可能性」を意味し、環境保護活動分野で使用されることの多い言葉だが、最近では企業活動分野でも用いられる場面が増えている。企業活動分野での「サステナビリティ」には、企業が事業活動で利益を上げるだけでなく、社会的責任を果たすことで、長期的な事業継続の可能性を持ち続ける、という意味が含まれる。

ファッション産業においても、ファッション関連企業の事業活動が与える地球環境への負荷や労働環境問題への配慮の必要性は他産業と同様に高まっており、その認識は年々深くなっていると思われる。例えば本学においても「サステナブル」や「エシカル」の視点で研究や課題に取り組む学生が少しずつ増えており、関心の高まりがみられる。この背景には、2013年4月のバングラデシュ・ラナプラザビル倒壊事故¹に

関する報道や、「ファッション産業の闇に迫るドキュメンタリー映画」と謳われた映画「THE TRUE COST」(2015年)の公開など、消費者に認知されやすい形でファッション産業の現状が伝えられた事にあると考える。

既に持続可能性を目指して活動しているファッション関連企業も多い。その中には、既存のアパレル企業が取り組むケースや、地球環境の持続可能性を事業活動の目的に据えて取り組む企業のフィールドがファッション分野だったケースなど様々な形で存在する。そこで本研究報告では、著者のサステナブル研究の第一歩として、ファッション産業での企業の取り組みをその中心的な事業活動の内容で分類し、「繊維素材」、「企画」、「流通・小売り」の3つの切り口からいくつか取り上げ、活動の傾向を把握することを目的とする。

2. 繊維素材

2-1. スパイバー株式会社による人工合成クモ糸繊維の実用化

スパイバー株式会社 (2007年設立、山形

提出年月日：2017年2月13日

受理年月日：2017年3月9日

県)は「新世代バイオ素材開発」を事業内容とし、世界で初めて人工合成クモ糸繊維 QMONOS^(TM)の開発・量産化に成功した日本のベンチャー企業である。人工合成クモ糸繊維 QMONOS^(TM)の発想の元であるクモの糸は鋼鉄の340倍と言われるほどの強靱性の高さを持つ。それと同様に強く伸びる特性を持つため、繊維以外の産業や医療分野での応用も期待されている。また、QMONOS^(TM)の主成分であるタンパク質自体も、アミノ酸の組み合わせにより様々な繊維を生み出せる可能性を持っており、世の中の需要に応じた多様な素材開発にも期待が高まっている。タンパク質から新しい素材を作るという発想は、土に還る自然由来の繊維を従来の合成繊維のように石油に頼らずに低エネルギーで作れる点から、サステナビリティの観点での注目度が高いといえる。

2015年9月にはアパレル製品の実用化の第一歩として「MOON PARKA²(図2-1-1)」を株式会社ゴールドウインが有するアウトドアブランド「THE NORTH FACE」と共同開発した。この製品は2017年以降の発売を目指しているとのことである。



図2-1-1 MOON PARKA 商品イメージ

スパイバー株式会社の関山和秀氏(取締役兼代表執行役)は2016年1月のインタビュー記事の中で「世の中の大きな課題や誰かが解決しないといけない課題に関心もっています。³⁾」と話している。スパイバー株式会社による新繊維開発の事例は、地球環境の持続可能性を事業活動の目的のひとつに据えて取り組む企業のフィールドがファッション分野だったケースといえる。

2-2. 日本におけるフェアトレード認証コットン拡大への取り組み

ファッション商品に欠かす事のできない素材であるコットンは、その化学肥料と農薬を用いる生産方法が土壌汚染や水質汚染、また生産者の健康被害に繋がっているとして社会問題になっている。その問題の解決策の一つとして、オーガニック栽培とフェアトレード認証を取得したコットンの使用が挙げられる。

オーガニックとは、「農薬や化学肥料に頼らず、太陽・水・土地・そこに生物など自然の恵みを生かした農林水産業や加工方法」⁴⁾を指す。特定非営利活動法人フェアトレード・ラベル・ジャパンによれば、フェアトレードとは『直訳すると「公平な貿易」。つまり、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」』⁵⁾とある。この二つの要素を併せ持つことで、環境保護、生産者の保護につなげることができる。同法人の発表によると、フェアトレード認証コットンの国内販売数量(図2-2-1)は2015年時点でわずか47トンであ

るが、2010～2012年は流通していなかった点と2014年からの増加率276%という結果から考慮すれば飛躍的に伸びているといえる。



図 2-2-1. フェアトレード認証産品
国内販売数量推移 (単位：トン)⁶

この普及の背景には、大手企業 (NTT グループや大日本印刷など) の CSR 部門との連携によって、企業活動でのオフィスサプライ (消耗品) にフェアトレードコットン製品を取り入れるという方法の採用が挙げられる。これは株式会社フェアトレードコットンイニシアティブが構築した BtoB でのフェアトレード導入プラットフォームによるものである。同社代表取締役の入江英明氏の記事に、「(フェアトレードコットン製品を) オフィスサプライとして何万人もの従業員を抱える多くの大企業と組むことによって一気に普及を促進しているところが大きな特徴」⁷とある。フェアトレード認証コットンの流通拡大によって、国内での流通拡大とそれに伴う認知度向上が期待される。

3. 企画

3-1. People Tree

People Tree とはフェアトレードカンパニー株式会社 (1995 年設立、東京都) が展開するフェアトレード専門のブランドである。

同社は創設者 サフィア・ミニー氏によって、環境保護と途上国支援を目的としたビジネスの実践と普及を目指して設立された。サフィア・ミニー氏はサステナブルファッションの推進に貢献した人物に贈られる「The SOURCE アワード」を 2012 年に受賞している。

People Tree は日本とイギリスにおいてフェアトレードで作られた製品の製造・販売を行っており、フェアトレード団体を認証する WFTO マークも 2003 年に取得している。2009 年には女優のエマ・ワトソン氏とコラボレーションし商品企画を行い、2014 年にはデニムブランドの Lee とジーンズの共同開発を行うなど、若い世代へのアプローチも積極的に行っている。

フェアトレードを念頭に置いて商品企画を行う点はもちろん、若年層への認知・普及を向上させるための取り組みにも注力しており、地球環境の持続可能性を事業活動目的とした企業のケースと考えられる。

3-2. Stella McCartney

デザイナーのステラ・マッカートニー氏は、イギリスの田舎にある有機農場でベジタリアンとして育てられ、1995 年からキャリアをスタートした。自身の企業を「責任を持ちモダンビジネスを行うベジタリアン企業⁸」とし、自身のブランドである Stella McCartney を「世界で初、世界で唯一のベジタリアン・ラグジュアリーブランド⁹」と呼んでいる。皮革や毛皮などの動物に関する素材やポリ塩化ビニルを使用しないポリシーのもと、Ethical Trade Initiative¹⁰への参加、NRDC¹¹による clean by Design プログラムに協力をしている初の高級ブランドとし

て環境を意識したコレクションを行っている。しかし、サステナビリティを考慮しすぎることで、ファッション性が損なわれることは避けていて、その洗練されたラグジュアリー感を持つデザインは現代の女性から多くの支持を得ている。また、グローバルサステナブル企業であるアディダスなど、自身の信念と共感できるブランド企業とのコラボレーションも行っている。

「持続可能性というのは、1つの事柄に限定されたものではない¹²⁾」と述べているように、取り扱う全製品を追跡し、製品が直接的、間接的に地球にどのように影響しているかを日々検証している。それは、図表 3-2-1 のオーガニックコットンの使用率の変化にも見られるように年々変化している。

表 3-2-1. Stella McCartney のアイテム別オーガニックコットンの使用率の変化¹³⁾

アイテム名	2013 年	2014 年
デニム	51%	72%
コットンジャージ	25%	54%
キッズウェア	-	74%

2017 年 1 月時点での Stella McCartney の公式ウェブサイト¹⁴⁾上には、サステナビリティというカテゴリーの中、ブランドのサステナビリティ活動を細かく伝えている。それらの一部をアイテムと素材に分けて、そのコミットメントの内容を表 3-2-2、表 3-2-3 にした。

製品を作る過程において、人と環境に悪影響を与える影響を考慮し、日々の改善を行っているが、それは表 3-2-4 のように店頭

やオフィスでも行っている。

ここで挙げたように、Stella McCartney では、日々ブランドが行っている生産が環境に及ぼす負荷とその負荷を少しでも少なくすむよう、様々な環境を意識して、改良・改善を行い、人と環境が持続できるように企業としてブランドとして取り組みを行い、研究をし続けている。その意識を生産者として持ち、全力で努力し、情報を発信し伝播させている。このケースは、事業活動の中心がファッション商品の企画・流通でありながら、サステナビリティへの意識がその活動に強く根付いている企業と考えられる。そのファッション性の高さと、サステナビリティへの強い意識と行動力から、共感するファッション感度の高い顧客に訴求できているのではないかと。

表 3-2-2. Stella McCartney のアイテム別のコミットメント内容¹⁵

素材	コミットメントの内容
再生カシミア	ニットウェアコレクションでのヴァージンカシミアの使用を中止し、イタリアで生産時に出る繊維廃棄物を再生して作ったカシミア「Re.Verso™」を使用。環境負荷を 92%軽減。
アンゴラウサギ使用の禁止	PETA ¹⁶ のアンゴラウサギの窮状への取り組みに賛同し、2013 年秋以降、全ての製品にアンゴラを使用せず。
リサイクル・マイクロファイバーの染色	リサイクル・マイクロファイバーは、日本の毒性のない染料を使って染められている。生産過程では溶媒を使わず、水をベースにしたシステムで生産。
オーガニックコットン	効率良く水を使用して、有害な化学物質の使用を避けることで土壌を健全に保つ。それにより農家のより良い社会状況と労働条件を促進。化学物質が少ないことで生物多様性が広がり、より良い地球環境へと繋がる。アイテム別の使用率は表 3-2-1 参照。
レザーの代用	レザー、ファー、エキゾチックスキンやフェザーを使用しない。レザーを使用しないことで森林破壊に関与するリスクを大幅に削減。レザー代用素材「Eco-alter nappa」を開発し、2013 年秋以降使用。ポリエステルとポリウレタンからなり、コーティングの 50%以上は再生可能な天然資源で非食用油である植物油でできていて石油の使用量を抑えられる。
ポリ塩化ビニル使用の禁止	2008 年からポリ塩化ビニルの量を減らし、2010 年以降は、コラボレーションの adidas by Stella McCartney の全アイテムにも、ポリ塩化ビニルを使用せず。
ビスコース	認証木材の利用に専念。ヨーロッパ域内にはビスコース製造のサプライチェーンが構築されており、その追跡可能で高い透明性のあるビスコースを使用。2017 年春コレクション以降は全てのビスコースはスウェーデンの持続可能な森林から供給 ¹⁷ 。
デニム	デニムのダメージ加工であるサンドブラस्टィングのプロセスを行わない。このプロセスは、労働者に致命的な肺の病気を引き起こすので、労働者に安全な方法をとる。

表 3-2-3. Stella McCartney の素材別コミットメントの内容¹⁸

アイテム	コミットメント内容
ハンドバッグ	全製品で飲料水ペットボトルからリサイクルしたポリエステルを原料とする裏地を使用。
アイウェア	ヒマシ油種子やクエン酸などの天然原料を 50%以上使用している、生分解性バイオプラスチックである「APINATBIO®」を使用。
ランジェリー	ハードウェアにリサイクル金属を使用し、ガセットにはオーガニックコットンを使用。
フレグランス	全フレグランスは、ビーガンを考慮し、動物実験やハチを含む動物由来の成分は使用せず。
シューズやバッグ	魚由来の糊、また全ての動物由来の糊は使用していない。

表 3-2-4. Stella McCartney のその他コミットメントの内容¹⁹

	コミットメントの内容
店舗とオフィスの電力	英国の店舗、事務所とスタジオの電力は、Ecotricity 社供給の風力エネルギーを使用。海外の店舗とオフィスは、再生可能エネルギーを使用し、そのうち 45% は 100%再生可能なグリーンエネルギーで実行されている ²⁰ 。
新店舗の電球	新ストアは、従来の電球に比べてエネルギー消費を 75%低減し、25 倍長持ちする LED 照明を採用。LED 照明の採用により、ストアとオフィスの照明に必要なエネルギー量を大幅に削減。
エネルギーに関する LEED 認証の店舗	2011 年、テキサス州ダラスに LEED ²¹ の認証を取得した太陽光パネルと省エネ空調ユニットが設置されているストアをオープン。現在は LEED 認証を受けたモールであるラスベガスのシティ・センター・モール内 Crystals と、北京の Parkview Green 内にも同様の店舗がある。
植林プロジェクト	マイアミで Million Trees Miami と Bio Planet US と連携。過去 3 年間にわたり、2020 年までに 100 万本の木を植えるという Million Trees Miami の目標を支援 ²² 。
廃棄物の削減	2014 年に、埋め立て地に行く予定の 57 トンの廃棄物がリサイクル・リユースされ、現在では使用されなかった全ての布地をリサイクルしている。
森林に対する FSC 認証	使用する紙類および梱包資材やヘリンボーンウッドのフローリング、全て FSC 認証 ²³ を取得。森林持続性を守りつつ調達された木材を使用。ストアデザインにウォールパネル材の Baux を採用。Baux はスウェーデンの Traullit 社が現地調達した FSC 素材のみをスウェーデンで製造。この素材は持続可能な方法で調達・製造された素材であることに加え、優れた断熱性を備えている。
ローカライゼーション	ローマ店は地元のアンティーク家具を購入。できる限り、家具はオークションでの入手や地元で調達するように。

3-3. 132 5. ISSEY MIYAKE

株式会社三宅デザイン事務所では社会環境に配慮した商品開発に取り組んでいる。

「リアリティ・ラボ」という研究開発チームを結成し、有限な地球資源とどう向き合っていくべきか、衣服デザイナーとして環境問題に対し出来る取り組みとは何かを研究している。その一環として、2010 年には、再生ポリエステル の新しい活用方法を模索した結果として、「132 5. ISSEY MIYAKE」というブランドとして発表し、商品展開を開始した。同ブランドの商品は再生ポリエステルを使用し、資源の再利用という環境問題へのアプローチを行っている。また、商品の特徴として、着物のように平面の形

で収納することが可能であり、着用すると折り紙の造形のような美しい立体が構築される (図 3-3-1²⁴)。「一枚の布」で身体 (立体) と布 (平面) の理想の関係性を追求するという三宅一生氏の長年のテーマと、持続可能性を秘めた素材が融合した新しい取り組みだといえる。また、取り組みをひとつのブランドとして展開することで、そのブランドの浸透に伴う消費者の意識の変化も期待されるが、認知度はまだ低いのが現状である。このケースは、既存のアパレル企業が新たにサステナビリティに取り組む事例と捉えられる。



図 3-3-1.
132 5. ISSEY MIYAKE の商品イメージ

4. 流通・小売り

4-1. H&M グループ

ここ数年、サステナビリティへの取り組みがめざましい企業として H&M グループ（1947 年設立、スウェーデン）が挙げられる。同社では幅広い活動を展開しており、その一部を以下に記す。

①古着回収とリサイクル繊維の活用

古着（H&M 以外のブランドも対象）を店頭で回収し、リサイクル繊維で作られた製品の販売を行う。同社の 2014 年度のサステナビリティ報告書「Conscious Actions Sustainability Report 2014」²⁵によれば、2014 年以降の古着の回収量は 2 倍以上に増加しており、合計 13,000 トン以上（6500 万枚の T シャツに相当する）に及んでいるという。

②ダウン製品の RDS 認証取得率 100%を達成²⁶

Responsible Down Standard (RDS) 認証²⁷とは、羽毛の生産・流通にあたり、ガチョウやアヒル等が人道的な方法で育成・採取されること及びトレーサビリティ（生産段階から消費段階までの追跡可能性）の確保を目的とした認証基準である。H&M グループ

では、2016 年 1 月 15 日、RDS 認証を取得したダウンの使用を発表し、商品は 2016AW から店頭に並ぶと公表した。

③バングラデシュの労働環境向上活動

2015 年、同社は ILO（国際労働機関）と協働で、バングラデシュの労働環境向上への活動を開始した²⁸。この活動は、「Centre of Excellence for the Bangladesh Apparel Industries」と呼ばれ、バングラデシュ・ダッカにおけるアパレル工場労働者の労働環境・雇用環境の改善を目指す 3 年間のプロジェクトである。このプロジェクトで、労働者のスキル開発の機会提供や、工場管理者に対して安全・衛生面や障がい者の雇用の増進、労働者の人権保護のトレーニングが行われる。同社は資金面・技術面での援助を担うとしている。

H&M グループのような大量生産を行う企業にとって、水質や土壌汚染といった地球環境の悪化と、労働環境の不整備や労働者の人権問題などの生産環境の悪化は、商品生産の継続を将来的に脅かしかねない重大な問題である。また、今後、消費者のサステナビリティに対する認識が向上するにともない、大量生産・大量消費に対する否定的な意見や、その生産工程における倫理性の確保を求める声も増加していくものと思われる。よって大量生産・大量消費の代名詞ともいえる「ファストファッション」の企画・生産・流通を事業主体とする企業のサステナビリティへの取り組みは、商品生産の安定と消費者からの企業イメージ向上、信頼向上に対して大きな意味を持っている。H&M グループのケースは、既存のアパレル企業が大々的にサステナビリティ

イ活動に取り組む例であり、その方法を示すロールモデルになりうると考えられる。

5. 考察

ファッション産業のサステナビリティに対する活動の一部を羅列してきた結果、その目的は2種類に大別されるのではないかと考えた。それは、①持続可能な社会の実現を目指すという直接的な目的と、②企業の信頼、イメージ向上という目的の2種類である。ファッション産業の企業が長期的な事業継続を目指す上で、①、②の視点がどちらも必要不可欠になってきているのではないかと考える。「サステナブル」を目的とした事業活動でも、社会的責任を果たすという観点から本筋の事業内容とは異なるが取り組んでいる場合でも、その行動に意義があると感じる。

「1.はじめに」で、本学においても「サステナブル」や「エシカル」の視点で研究や課題に取り組む学生が少しずつ増えていることに触れたが、海外の教育機関内でも、その傾向が見られる例があった。2016年9月にロンドンを訪問した際には、London College of Fashion の図書館には、KATHARINE HAMNETT のサステナブルテキスタイルが展示してあり（図 5-1-1）、また、Central Saint Martins でもサステナブルテキスタイルの見本に触れられるコーナーがあり（図 5-1-2）、そのサステナブルテキスタイルを取り扱っている企業情報を閲覧して、学生自身がコンタクトをとれるようになっていた。また University of the Arts London のリサーチセンターでは、2008年にサステナブルファッションセンターを設立し、ケリングと共に次世代のサステ

イナブルファッションのデザイナーの育成にも取り組んでいる。このように、現在、ファッションを学ぶ学生は、学生時代からサステナブルの視点を持ち、テキスタイルやデザイナーの考え方に触れる機会が増えてきている。

今後、サステナビリティの意識を持った若い人材がファッション産業界で増えることで、さらにその活動が推進されていくのではないかと。



図 5-1-1. London College of Fashion の図書館内のサステナブルテキスタイルコーナー



図 5-1-2. Central Saint Martins の図書館内のサステナブルテキスタイルコーナー

参考文献

枝廣淳子監訳「リサーチエンス詩選集 つながりを取りもどす時代へ 持続可能な社会を目指す環境思想」2009年、大月書店

Website

- ◆ スパイバー株式会社公式ウェブサイト：<https://www.spiber.jp>
- ◆ インタビュー記事「世界初、人工合成クモ糸の製品化に成功！スパイバー社長の人生を掛けるテーマの見つけ方」2016年1月22日：
<https://mirai.doda.jp/series/interview/spiber-kazuhide-sekiyama/>
- ◆ 山形コラム「山形仕事図鑑#027 機械設計。クモの糸の実用化を目指すバイオベンチャー企業」2012年12月12日：<https://mirailab.info/column/3653>
- ◆ 山形コラム『鶴岡のバイオベンチャー「スパイバー」×「THE NORTH FACE」がアウタージャケットを共同開発！』2015年10月13日：
<https://mirailab.info/column/8225>
- ◆ 『新世代構造タンパク質素材を用いた世界初 アウトドアアパレル「MOON PARKA」発売延期に関するお知らせ』：
https://www.spiber.jp/uploads/2016/09/160930_moonparka_japanese.pdf
- ◆ 特定非営利活動法人 フェアトレード・ラベル・ジャパン (FLJ) 公式ウェブサイト：<http://www.fairtrade-jp.org>
- ◆ 株式会社 フェアトレードコットンイニシアティブ公式ウェブサイト：
<http://www.fairtradedcottoninitiative.com/aboutcotton>

- ◆ Stella McCartney
公式ウェブサイト：
<http://www.stellamccartney.com/jp>
- ◆ ISSEY MIYAKE 公式ウェブサイト：
<http://www.isseymiyake.com/>
- ◆ H&M グループ公式ウェブサイト：
<https://about.hm.com/en.html>
- ◆ Responsible Down Standard 公式ウェブサイト：<http://responsibledown.org/>

¹ この事故ではアパレル生産工場が入ったラナプラザビルが崩壊し、縫製業に従事していた労働者を含む100人以上が命を落とした。原因は、安全基準を満たしていない違法建築ビルでの操業を、当局からの忠告を無視して続けたことによるといわれている。

² YAMAGATAMIRAILAB. 『鶴岡のバイオベンチャー「スパイバー」×「THE NORTH FACE」がアウタージャケットを共同開発！』2015年10月13日
<https://mirailab.info/column/8225>

³ DODA “未来をかえる” プロジェクト インタビュー 「世界初、人工合成クモ糸の製品化に成功！スパイバー社長の人生を掛けるテーマの見つけ方」2016年1月22日

<https://mirai.doda.jp/series/interview/spiber-kazuhide-sekiyama/>

⁴ 特定非営利活動法人 日本オーガニック&ナチュラルフーズ協会 「オーガニックの意味は何か」
<http://www.jona-japan.org/qa/>

⁵ 特定非営利活動法人 フェアトレード・ラベル・ジャパン (FLJ) 公式ウェブサイト「フェアトレードとは：フェアトレードミニ講座」

http://www.fairtrade-jp.org/about_fairtrade/000011.html

⁶ 特定非営利活動法人 フェアトレード・ラベル・ジャパン (FLJ) 公式ウェブサイト「フェアトレードとは：日本市場」を引用の上、加筆して作成

http://www.fairtrade-jp.org/about_fairtrade/000019.html

⁷ 株式会社コットンイニシアティブ公式ウェブサイト「綿100%の真実：国際認証について」

<http://www.fairtradedcottoninitiative.com/about-fairtrade>

⁸ Stella McCartney 公式ウェブサイト「現代企業」
<http://www.stellamccartney.com/experience/jp/sustainability/a-modern-business/>

⁹ 同上

¹⁰ 英国の倫理的業者推進 NGO

¹¹ Natural Resources Defense Council：天然資源防護協議会 NPO

¹² Stella McCartney 公式ウェブサイト「現代企業」
<http://www.stellamccartney.com/experience/jp/sustainability/a-modern-business/>

-
- ¹³ Stella McCartney 公式ウェブサイト「オーガニックコットン」
<http://www.stellamccartney.com/experience/jp/material/cotton/>上の掲載内容から作成
- ¹⁴ Stella McCartney 公式ウェブサイト
<http://www.stellamccartney.com/jp>
- ¹⁵ Stella McCartney 公式ウェブサイト <http://www.stellamccartney.com/jp> 上の掲載内容から作成
- ¹⁶ People for the Ethical Treatment of Animals : 動物愛護団体である動物の倫理的扱いを求める人々の会
- ¹⁷ FASHIONISTA ‘FASHION IS GETTING AWAY WITH MURDER.’ STELLA MCCARTNEY TALKS SUSTAINABILITY By AILSA MILLER
<http://fashionista.com/2016/11/stella-mccartney-sustainability-interview#!>
- ¹⁸ Stella McCartney 公式ウェブサイト
<http://www.stellamccartney.com/jp> 上の掲載内容から作成
- ¹⁹ Stella McCartney 公式ウェブサイト
<http://www.stellamccartney.com/jp> 上の掲載内容から作成
- ²⁰ FG MAGAZINE 「Stella McCartney :Fashion And Sustainability」
<http://www.thefashionglobe.com/stella-mccartney-sustainable>
- ²¹ Leadership in Energy and Environmental Design : エネルギーと環境デザイン・米国グリーン建築基準。環境に配慮した建物に与えられる認証システム。
- ²² Miami-Dade County 「Million Trees Miami」
milliontrees.miamidade.gov
- ²³ Forest Stewardship Council : 森林管理協議会認証。森林の環境保全に配慮し、地域社会の利益にかなない、経済的にも継続可能な形で生産された木材に与えられる認証。
- ²⁴ Fashionsnap.com 『イッセイミヤケの「リアリティ・ラボ」って何？研究開発の一部を公開』2013年11月12日
<http://www.fashionsnap.com/inside/isseymiyake-reality-lab/index.php>、株式会社イッセイミヤケ公式ウェブサイト http://www.isseymiyake.com/brand/132_5.html
- ²⁵ H&M グループ 2014 年度サステナビリティ報告書「Conscious Actions Sustainability Report 2014」
http://www.wearefutura.com/wp-content/uploads/2016/03/Conscious-Actions-Sustainability-Report-2014_en.pdf
- ²⁶ H&M グループ公式ウェブサイト「100% ETHICALLY SOURCED DOWN」2016年1月15日
<http://about.hm.com/en/media/news/responsible-down-standard.html>
- ²⁷ Responsible Down Standard 公式ウェブサイト
<http://responsibledown.org>
- ²⁸ Sustainable Japan 【バングラデシュ】H&M、ILOらと協働してサプライヤーの労働環境を改善へ
2015年1月16日
<https://sustainablejapan.jp/2015/01/16/hm-cebai/13441>